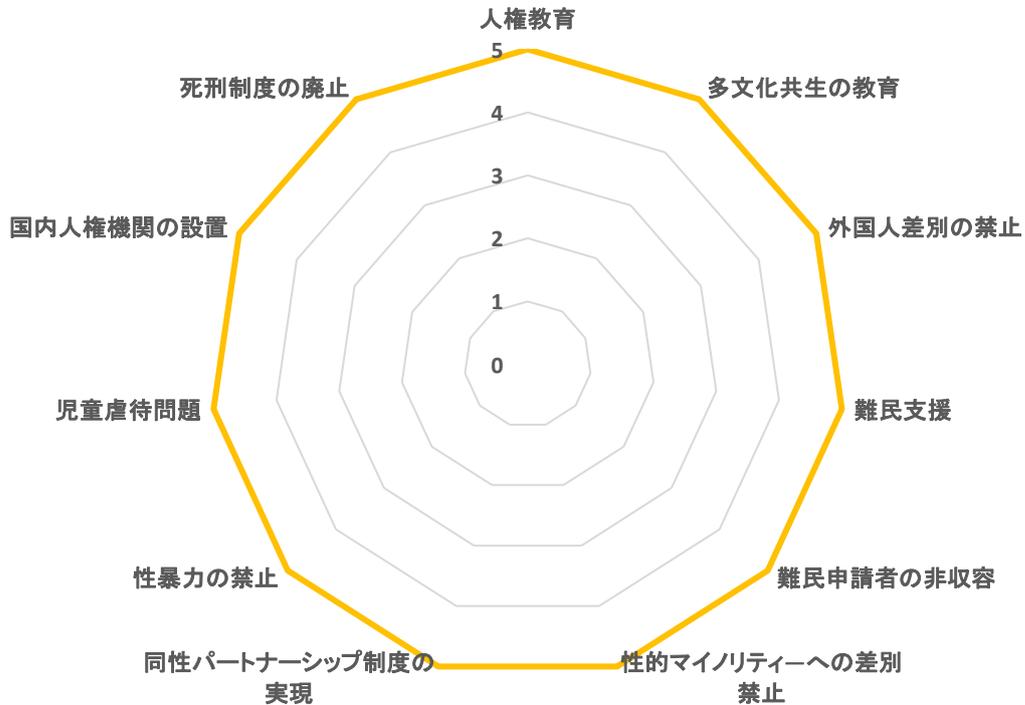


亀石 倫子(立憲)

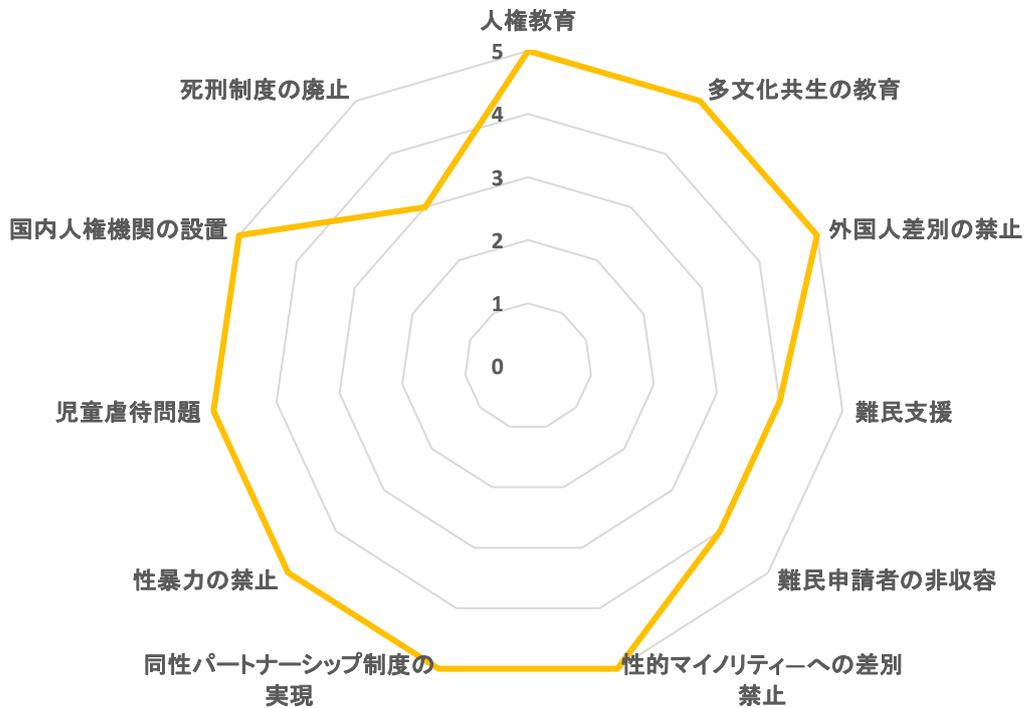


特に取り組みたい人権課題

ヘイトクライム、移民・難民、ジェンダーなどの人権課題について、当事者や支援者と協力して積極的に取り組んでいきたい。

また、弁護士として様々な個人の自由が問われた憲法裁判に取り組んだ経験から、一人ひとりの「ささやかで、かけがえのない自由」を守ることが私の政治に対する基本姿勢であり、すべての政治課題についての人権の視点を意識した取り組みを進めていきたい。

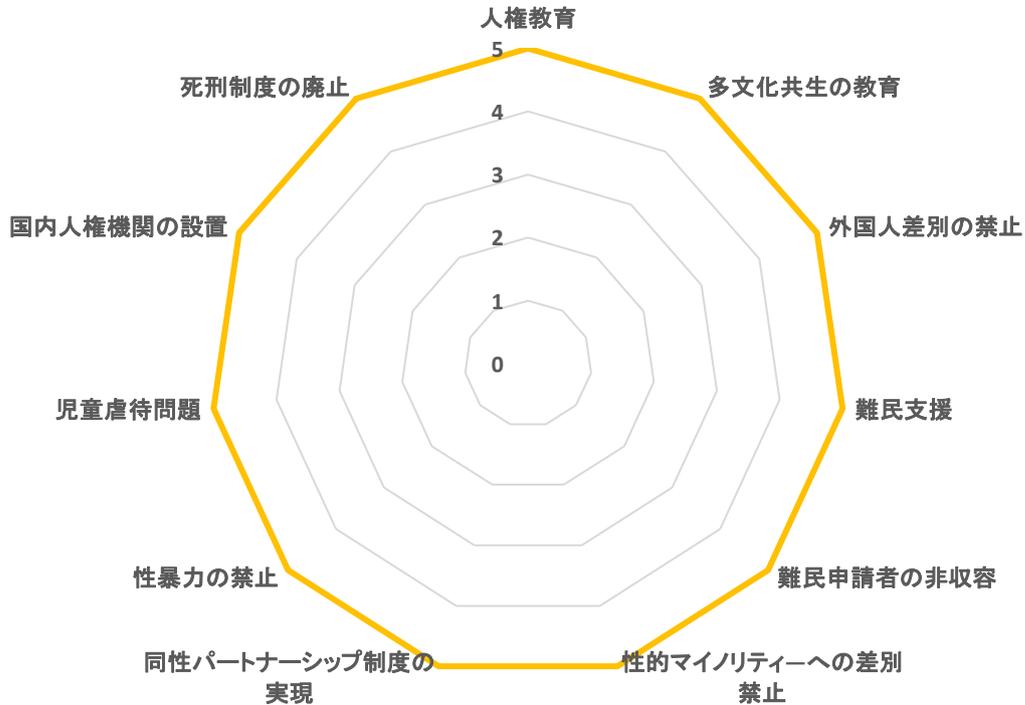
にしゃんた(国民)



特に取り組みたい人権課題

- ・ヘイトスピーチ対策法を発展させ、人権・民族・出身などを理由とした差別を禁止する法案を制定します。与党の反対により進まない「LGBT差別解消法案」の成立を目指します。
- ・共に生きる「共生から」一歩進める。いがみ合っても、共に生きていることに変わりはないのだから、女性やシニア層、障がいのある方、外国人などのあらゆる人活躍し、と主に笑って生きる「共笑」(ともえ)の社会を実現します。

辰巳 孝太郎(共産)

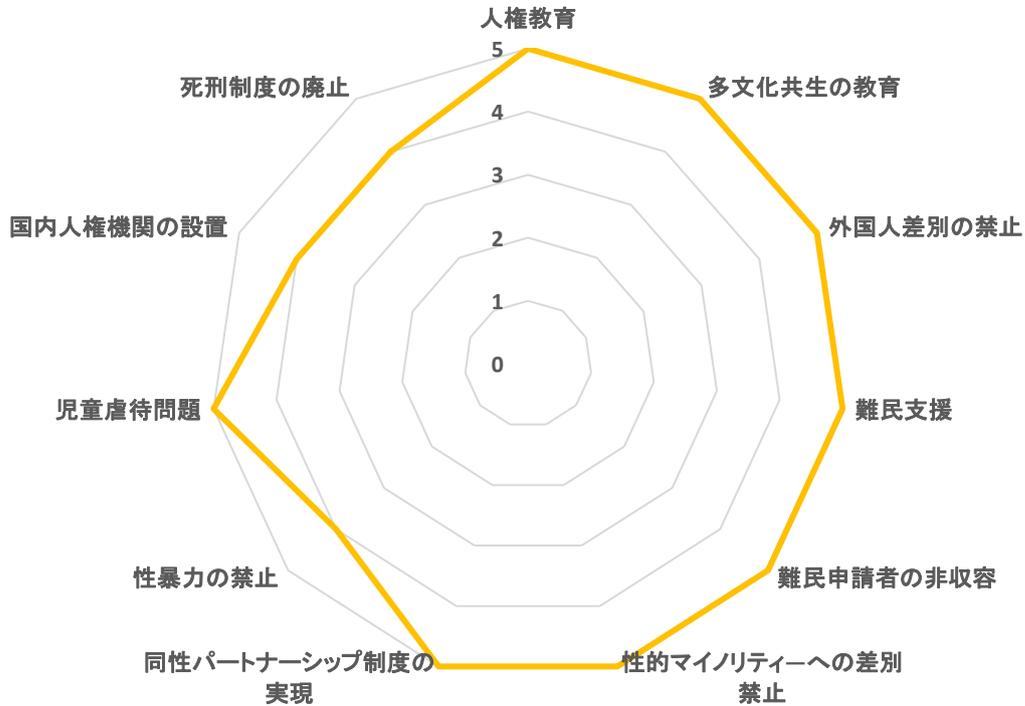


特に取り組みたい人権課題

ジェンダー平等社会・性暴力やDVを許さない社会を実現すること。セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメントに苦しむ人をなくすこと。LGBT/SOGI(性的指向・性自認)に関する差別のない社会を作ること。在日外国人の権利を守り、ヘイトスピーチを根絶することなどに取り組みます。

また、学校教育では、安倍政権の道徳の教科化をやめ、学校生活全体が基本的人権と子供の権利を大切にできる環境を作ることが必要です。また、性的マイノリティ(LGBT)の子供への適切な配慮を行うこと、過度な競争教育、「ブラック構想」などの管理強化をただし、学校が「子どもの権利」が保証され、通うのが楽しい場になるように取り組みます。

佐々木 一郎(労働者党)



特に取り組みたい人権課題

直接的に人権課題というわけではありませんが、現在、資本の下で働く人たちが苦しんでいる、長時間労働に象徴される搾取労働、そして、非正規雇用者や女性労働者の間に広くはびこっている差別労働の即時一掃にとり組みたい。

現在、労働者の人権は、法律的には雇う資本家と同等なものとして認められていますが、その実態は、労働者は資本家に雇われることによって、彼の一日の労働を資本家に売り渡し、資本に隷属する鵜飼ことになります。彼の賃金は彼の一日の労働時間のごく一部の価値に相当するだけです。その残りを資本家が搾取します。

このことによって、長時間労働や差別労働などが横行し、働く者の人権が実質的に蹂躪されることになります。これは、人権の課題として解決するものではなく、労働者が資本家と闘うことによって勝ち取られるものです。さらに資本の支配を変革する闘いに発展させ、労働者・働く者が主人公となる社会の実現をめざします。人が人らしく生きるという人権の課題はこのような社会運動の結果として前に進むものと考えます